

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人秋田大学

1 全体評価

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げており、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、さらに、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進することにより、全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人の育成を目指している。第3期中期目標期間においては、教育の質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、全学的な視野に立った教員配置に取り組んでいるほか、大学広報の機能強化を目的に効果的な広報活動に向けた職員のスキルアップを実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- トリサクティ大学（インドネシア）に設置した共同研究室において、同大学とのワークショップを開催し、現地企業の技術者や同大学学生に教育研究指導を実施して、技術力の向上に取り組んでいる。
- アフリカ・中東地域への海外共同研究拠点の設置に向けて、ボツワナ共和国を訪問し今後の拠点形成に向けた検討を開始するとともに、拠点設置へ向けて、ボツワナ大使と面談し今後の方向性について協議を実施している。（ユニット「資源学分野を核とするグローバル化の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化				○		
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項中12事項が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学長のリーダーシップに基づく教員人事の推進

教授の選考（採用、昇任）にあたって、各部局の教育研究カウンスル等の議を経た全ての教授候補者について、学長及び副学長を兼務する理事で構成する人事調整委員会による面接を実施することにより（年間12回実施）、学長自らが全学的な視野に立った教員配置に取り組んでいる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○ 年度計画の未達成

「教員（承継職員）について、平成28年度にその10%（約60人）を年俸制に移行するために、引き続き、現行給与制度を適用している教員（承継職員）からの年俸制への切替え、臨床系助教及び外国人教員等の年俸制による採用を進める。」（年度計画【53-1】）については、平成28年度における実績は42名にとどまっていることから、年度計画を十分には実施していないものと認められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 効果的な広報活動に向けた職員のスキルアップの実施

学内広報担当者を対象とした勉強会を新たに実施しており、大学広報の機能強化を目的に、地元新聞社の記者による講演を実施しているほか、受験業界での現状や最近の傾向などを把握することで魅力ある大学イメージを構築していくことを目的に、予備校関係者による「受験生から見た秋田大学の現状と課題」をテーマとした講演を実施するなど、職員が効果的な情報発信の手法を学ぶ機会を提供している。また、これら講演会における指摘に基づき、研究内容をわかりやすく紹介するための特設ウェブサイトを開設するなど、広報活動の改善に取り組んでいる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 24時間対応可能な学生相談ダイヤルの設置

従来の学生相談窓口は対応時間が限られていたため、フリーダイヤルによって24時間相談が可能な学生相談ダイヤルを設置している。学生支援・就職課職員が相談業務を担当するだけでなく、夜間及び土日祝日の受信については外部業者に委託することにより、学生が時間や内容を問わずに相談できる環境を整備しており、平成28年7月から平成29年3月における相談件数は104件となっている。

○ 他大学及び金融機関との協定締結による連携推進

大学が保有する知的財産を中小企業に技術提供することで、産学金の連携の推進、産業の活性化、及び地方創生を実現するために、秋田大学、岩手大学、弘前大学、秋田銀行、岩手銀行、青森銀行の6者で協定を締結し、「地域TLOネットビックスプラス」事業を実施している。当該事業は秋田大学がとりまとめの中心となっており、大学が保有しているシーズを共通のデータベースに集約することで、銀行が取引先企業の技術課題解決へ向けた情報を速やかに取得することを可能とするなど、産学金の連携の促進に取り組んでいる。

附属病院関係

(診療面)

○ システム活用による安全な輸血の実施

外来患者への輸血実施時の患者・血液製剤の認証について、附属病院が中心となって開発し、平成16年に全国に先駆けて実用化（全面導入）した「電子タグを用いたベッドサイド安全管理システム」を活用した認証を、平成28年11月から全診療科において開始した結果、客観的かつ正確な患者・製剤の認証を実現しているほか、病院情報システム上に実施記録が自動で作成され、詳細かつ確実な診療記録の作成も可能となるなど、外来患者への輸血を安全に行うための取組が行われている。

(運営面)

○ 診療支援システムのアクセス制限による業務効率性及び安全性の向上

病院の診療支援システムにおいて、管理者が指定した患者にアクセス対象を制限したうえで、そのアクセス権を強制的に参照権限のみに限定する仕組みを開発し運用を開始している。この運用により、病院業務を行わない利用者が、治験のモニタリングや研究目的で当該システムの情報を参照する際、病院職員が記録を印刷して提示する等の従来の方法に代わり、電子原本の記録を利用者が直接参照することが可能となっているほか、病院情報システムへの監査証跡の記録が実現されるなど、当該システムの安全性・信頼性の向上が図られている。

○ 女性医師のキャリア支援の推進

あきた医師総合支援センターや医師会と連携したキャリア形成・子育て支援等に関するイベントを開催しているほか、平成25年度から運営している「医学生・研修医をサポートする会」において医師の働き方に関する多彩なロールモデルを提示するなど、キャリア支援についての継続した取組により、平成28年度の女性医師の育休取得率及び復帰率がともに100%となるなど、女性医師のキャリア支援が推進されている。